



松の炭

蕉雨



久方々、祥きく名由きく
あしきくちきく今よのく
このなきを編き、ほきくすの
あしきくちきく今よのく
あしきくちきく今よのく
あしきくちきく今よのく
あしきくちきく今よのく



けいんきさくもあはれきり
 とあはれきりも又たの
 もしきりもあはれきり
 風光の勢とあはれきり
 くらげの海へん

朱樹使
 士朗

松子山

くくく松子山	くくく松子山	くくく松子山	くくく松子山	くくく松子山
蕉雨	徳青	士朗	素外	壺伯

早苗お多と湯の菴の戸
 壺伯く小義お家の宗して
 月小正原山と月と月
 り秋の原風おさきおお多と
 くらげの海へん 玉壺の酒

岳輪

扱多きれ若お深き人ささ
 石に露漢小橋うらむ少
 梅もあふ足る女々如人
 袴の如くお切に埋す
 御指新喰いおひし明り小
 云と袖とえれ舟之二十
 さし小吹ちししきる葉
 命のちさきさきくさる

桂五
 騏六
 臥央
 白岡
 少汝
 雨
 青
 詞

自去く一園をもつらひ夕暮
 夏房お味の旨さるる
 葦山の影暮の如く軒の赤
 目と病入お草の芽とさ
 春風と笛小たよして小舟
 わりれく小舟さし山さ
 りとさつ川に三のめお小
 琴を操りて表と知れ

外
 伯
 格
 五
 六
 汝
 岡
 央

千の神をたててとて
かのうまをたててとて
うつらうまをたててとて
海のはつをたててとて
たひなり 醫沙の家小きい
階上いひてとて
おろをたててとて
多たれとてとて
外 朗 青 雨
伯 外 朗 青 雨
方 明 方 明
楯 楯

千のうまをたててとて
海のはつをたててとて
たひなり 醫沙の家小きい
階上いひてとて
おろをたててとて
多たれとてとて
外 朗 青 雨
明 青 雨 輜 朗 外

七夕の書ふおしとては
あまのこしとては

はくしやあまのこしとては

臥央ヨハリ

おのゝやあまのこしとては

李三

誰もあまのこしとては

木人ヨハリ

おのゝやあまのこしとては

壽松ニ

あまのこしとては

押庄

あまのこしとては

魚之

あまのこしとては

標堂イヨ

信中

惟レ子レ白レやレ山レ路レ哉

素外ヨハリ

あまのこしとては

一之

乙レ白レやレ井レのレ邊

眉光ヨハリ

一句井小入とては
あまのこしとては

夕レ顔レのレ邊レとては

岳輅ヨハリ

父レやレ子レやレ園レ押レとては

象溪

あまのこしとては

知足

いそぐちや 依見きみ小くヨハリ 桂五

いそぐちや 依見きみ小くヨハリ 桂五

みちのく一見のとら

杏治やうん糸い 世よきももイセ 青阿

秋

あ代や山のくさるるの月 士朗

名月や山竹の低きよの月 蕉雨

りあせし小中秋の夜いあーも
あはれ小い小葉の葉い
荒くして礎のくもー
あはれくさるるくさるる
大略のさるいあはれ

不惑の月 多く 園ちれ 夕りち ヨハリ 方明

あはれ月 長き 小の 名外 仙 白居

秋き川や けんたえさ ねき 小ち 枕 重 重厚

あはれ 山守 小 修 斎 して

あはれ 秋を あはれ 秋も 見て くら けり ヨハリ 紀風

葉小車少せしりヲハリ小糸外 帶楳

一葉ちりきりイセ草の葉に 素兄

雨さふりきりヲハリ花さきり 椿堂

花の上小日影ほろりヲハリ女糸糸 啓甫

義ヲハリの義とつくりきりヲハリ秋 楚桐

秋の糸ふりきりヲハリ忍阿

草 奄

秋の糸ふりきりヲハリ羅城

落あつとる日らあつて秋田芭蕉轉之 五明

秋の糸ふりきりヲハリ吹こきり 伯先

晴籠や洛年やヲハリ衣てりきり 蛙圃

稿其糸ヲハリけりきりヲハリ枯枝糸 丈左

角力ヲハリよりヲハリ心あつてヲハリ力たれ 木吾

意ヲハリふりヲハリ懐小ヲハリ今ヲハリあつてヲハリ糸 七如

けりヲハリ糸ヲハリ糸ヲハリ中ヲハリよりヲハリ小糸ヲハリ石馬

秋の糸ヲハリやヲハリ月ヲハリ下りヲハリ糸ヲハリ月の秋 倚風

不二見申し月以て秋の紅葉
三川 卓池
可都里

み

行時多き水 向きまゝに
江戸 成美

野の静けさ

時多しよ印者より舟の月
墨山

ちり〜垂自よ〜明部〜
斗入
草も〜や 明日〜
白岡
夕の月も長閑な 登りた〜
双馬
てま〜子 咲屋〜 柳も〜
氷雲
家印〜
大阜
出〜〜や 自子 いろ〜
桔梗
昔霞
生海草〜
大魚
こ〜〜や 葉の〜
包〜
野の〜
駒六

晴き日 同しとくくく

雲帯

片^{スリ}枯り 日よ 暮やよ 晴の片

方朔^{スリ}

か^{スリ}しきや 浪きよきても 途一ても

竹有

本^{スリ}明しや 糸女眼の紅也

物裁

つ^{スリ}きや 葉よ 心より 雲水

梅好

初^{スリ}霜や おくれと 冬に 暮れ止

玉屑^{ハニ}

独^{スリ} 愁き 霜の 携き 歳暮に

星巴

お^{スリ}きよ 小 ちりえそ きて 咽たり

如毛

お^{スリ}きよ 小 雲もよの 宵に 闇

徐英^{ヨカリ}

雲の 目や 霧に ちり 水 嶋の 只

桃生^{三川}

細き こと ちり 明く 暮と ちり 雲

壺伯

よる

茶の 戸に 暮して 暮き 家 遠く 好

道彦^{江戸}

お^{スリ}きよ 小 ちり 暮小 ちり 好

延至^{ヨカリ}

魚 ぬく ちり 暮れ 流る 好

風子

その上やもみ寄るまよる

昆明

有は但須飲

花小なまよるささや

左浩

白梅やお月を白くも

升六

梅咲き押能ぬれ山家哉

州人

月を左めん

菴のまよる白の中を

蕉雨

梅を石めん

上臈の梅お人まよる

可紅

一節もまよるのてさ

鸞岡

人の梅うさる

月居

梅は小なり人多くハ

長翠

梅を屋々木小のり

宗韻

梅の戸や

騏道

梅の戸や

景磨

小山の梅小

千葉

高く廻る鏡水風情の又もく ヨシ 可翠

糸心多きまきまき 山 山鼻

けいふのこはる 洛 百池

まきまき 五 五芳

洛の海 ハ

永 ヨシ 永 少 少汝

史琳 士 士朗

船快 蕉 蕉雨

毎根 壺 壺伯

多 朗 朗

う 雨 雨

鞆 伯 伯

常あつてあひあひのそと合せ
柳のやうにさうまにあつて
塔のふちふち一柱ふさふさ
ふさふさふさふさふさふさ
かまふて目も遠くさうま
今の向ふもさうま山岩
見ふにさうまも目のあはれ
橋カシキ作れ 家のさうま
雨 朗 伯 雨 朗 伯 雨 朗

光琳のさうまや古堂殿 士朗
船橋のさうま 鴨川の自 蕉雨
毎根のさうま 道中 壺伯
ふさふさのさうま 普知 朗
ふさふさのさうま 人子 雨
朝露のさうま 止む 伯

常のきこあひのてり吹合せ
柳の影——さきさきいふさきさき
吟幸のあふ一粒さきさき
多かゆりてふり落葉とて
かきさけ目も遠くさきさき
今の向ふもさきさき山若
見さしさきさきさきさき
橋カニキ作れ家のさき——

雨 朗 伯 雨 朗 伯 雨 朗 伯 雨 朗

流る音のさきさき山の戸と鳴き
魚も目をさきさきさきさき浪
亡骸のさきさきさきさき眼さきさき
さきさきさきさきさきさき半
実物れ山路もさきさき暮れハ
いよのさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさき
結んさきさきさきさきさき

朗 伯 雨 朗 伯 雨 朗 伯 雨 朗 伯

水のちもてや船を逢田川
能く見れ人小き事少家
おやりの船つらふ古西
走りなきれ 板念お久
一押小し頃 居れ船の尔
菰の袋小くこしり音
併と咫尺の音小くき
いへやちさくし耳をのふ

雨 伯 朗 雨 伯 朗 雨 伯 朗

川をさし今もおも入松の葉と
とつありしきいしものさ
うほくやまもちあけの戸
垣根のうらへ下新と投定
孫ても葦てもちし船の本
このあやもよひふし

朗 雨 伯 朗 雨 伯 朗

士朗 十二句
 蕉雨 十二、
 壺伯 十二、

岱書

塔寶の修と悲〜西りみ
 洞をま〜とほれ蓬の
 真蹟あ〜とそ〜養南を
 知り〜と 把 園に 秘
 一〜と 人
 了〜と

よき月の初夜 田舎
さる世の中 小籠ひ来る
糸縫うさねと合掌
笠さかきさかき
あは連歌の題ふあは
人の一ふりさか
せね
ちりふにさか

終り歌くさ
ちりふにさか

さしをたさ終るあり夏の白 士朗
さきむらさき和歌いさ 蕉雨
きりぎりす梅草水さき 蘭更
一切の事おぼく 大阜
紙すきの娘小籠ひ来る 臥央
藤柳うけ人さか 壺伯

清雪ふるき水枯蔓の川に

驛六

顔のしづきな。花の

方明

乙のまゝとくおれ解ふ可

桂五

十お小袖とてきこむ

延至

つよしづかおとくおせ

昆明

花をよめるゆきと

素外

とくしやきおの場ふ人

少汝

垣指しぬけ井の静

徐英

鶴年の角切くせり

岱青

起るはきよしく花水

岳輅

のれ自り月このまふ

白図

よこしるはきよとす

竹有

八景 蕉雨選

寬政八丙辰復五月

尾張風月堂梓

